

優秀賞 「心に残る食事」

奈良県立法隆寺国際高等学校 1年 杉原 隆斗

僕は、祖母の作ってくれる味噌汁がすごく好きでおいしいと思います。僕がこの味噌汁に出会ったのは、小学校三年生の頃でした。

僕の小学校では三年生になった頃から、少し嫌なことがあったり、怒ったりするとすぐにガラスを割る子が少数いました。僕はその頃からガラスの割れる音が恐くなって、学校に行かなくなってしまいました。

そんな時に、たまたま母と祖母の家に昼ご飯を食べに行きました。いつも通りご飯を食べていて、味噌汁を飲んだ時、僕はすごくおいしくて感動しました。後で作り方を聞くと、味噌汁のだしにかつおを使っているということでした。しかも祖母はそのかつおを二〇～三〇分くらいかけて削ってだしにしてくれていました。

僕は、一瞬でなくなる味噌汁に、何十分も時間をかけて作ってくれる愛情がすごくうれしかったです。その後は、削り方を教えてもらい、僕がだしを作れるようになろうとしました。しかし、なぜか頑張ってるのに味が薄かったり、普通の味噌汁のままになったりしてうまく作れませんでした。そして僕は、愛情がたりていないとわかりました。

そんな祖母の愛情の事もあり、四年生に上がった頃には、学校に戻ろうという思いがだんだん強くなりました。

それから四年生の六月初めには、学校に戻り、高校生になった今も、部活動が午前練習で家に親がいないという時に、祖母の家に行き、昼ご飯を食べさせてもらうことがあります。

将来、この味噌汁を作れるようになって子供などに食べさせてあげたいです。